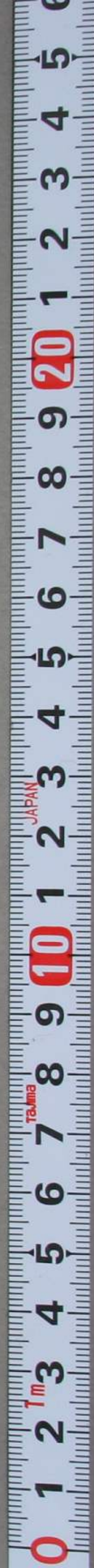


絲櫻春蝶奇縁

後編

壹

13 遠
1579
6



門八達 13
番 1579
卷 6

曲亭馬琴著
歌川豊廣画
後編 五册

糸桜春蝶奇縁巻之六

浪速書林
岡田群玉堂
岡田群鳳堂
合梓

糸桜 春蝶奇縁巻之六

東都

曲亭馬琴編述

第八段

翻蝶丸進之半响を懲と
綱五郎暗か狭七を救ふ

られしを思ひのり芝崎寺の厚きる業中にて十兵衛が悪棍徹八を追ひ
てしそくはも大徳を救ひて本町へおどけりしは第四の巻に既に演りし時
天文十八年夏六月の上院十兵衛のあしう大徳をま宿所へ誘ひひり挑燈
掲つ。又忙しき時多る業中へまりあて袂色を索るお兩個の在り妨られ意を
為してよりしふ大徳へ身ありへしとら陣羽織を失ひて八生て良入狭五郎
小環合ともそのひり死に親しあはまき面子」とうら歎けども入り



親よおのふと。おのふと。位よけし。大總のあが牙よつて。昔の袂とぬる
 あそ。日胸十五。湯ホハセ。あそ。のよ。おひて。領よ。念仏。うら。あて。綱五郎の
 大總よ。對ひて。某。幸よ。母の遺骨を。迎うて。先堂よ。葬る。と。ま。る。を。あ。が。牙。が
 賜の。と。便著る。人。と。す。く。と。ま。る。執持。せ。と。し。も。只。ひ。つ。ま。も。の。如。く
 と。あ。せ。し。と。い。ひ。耐。め。干。五。湯。ホ。ハ。相。禪。て。母の白骨。と。芝。崎。道。場。に。葬。て。石。塔
 婆。と。建。す。追。薦。の。法。念。を。可。嚙。よ。う。め。ひ。喪。は。龍。と。を。預。よ。秋。と。る。擔。乃
 灼。燈。籠。干。南。盆。の。と。や。果。く。ん。干。五。湯。の。大。總。が。う。ぬ。綱。五。郎。は。後。一。う。く。ふ
 彼。と。妻。と。て。牙。め。ら。質。氣。よ。う。め。ひ。と。言。は。後。場。と。論。せ。も。綱。五。郎。は。ひ
 引。ぞ。親。の。續。と。い。ひ。め。が。ら。これ。奉。房。の。甲。子。し。只。ひ。憾。武。士。の。子。と。生。れ。ど。
 中。や。く。は。て。一。郷。の。餓。鬼。大。お。と。い。う。れ。と。吾。海。の。て。あ。れ。ど。も。圓。塚。山。の。山。賊
 ホ。も。ら。里。へ。の。面。を。な。さ。だ。商人。の。子。さ。り。の。商人。を。嫌。ふ。と。一。家。の。不。幸。い

い。れ。ど。も。實。の。一。郷。の。幸。る。勇。士。九。を。喪。ふ。と。致。志。と。妻。と。娶。り。子。と。奉。が。
 桎。梏。と。め。け。ら。て。志。を。果。し。し。姨。母。の。大。總。を。娘。女。と。て。別。は。婿。と。招。め。り。この
 肆。は。ま。さ。る。ん。つ。つ。の。う。ら。捨。て。お。し。る。と。い。ひ。放。て。う。け。し。ま。さ。な。り。う。
 けり。見。開。の。獲。の。あ。り。と。も。律。の。中。を。竊。て。忍。地。に。中。夜。失。ひ。う。や。綱。五。郎。の。
 勢。う。推。辭。と。も。大。總。が。和。を。慕。ひ。る。貴。を。れ。う。う。の。も。あ。る。と。相。禪。て。ん。と。と
 と。ひ。て。あ。て。閑。室。は。招。め。り。綱。五。郎。と。婚。縁。を。結。せ。ん。と。あ。り。と。密。中。の。説。き。し。
 と。あ。げ。よ。し。れ。が。大。總。の。中。や。く。以。を。擡。寢。室。は。不。忍。の。縁。あり。て。便。著。な。り。た
 身。と。り。て。産。育。の。親。は。異。る。ぬ。お。ん。慈。愛。の。ゆ。え。と。芝。浦。あ。り。け。り。何。る。ふ
 ま。ん。宣。め。り。と。推。辭。へ。ん。は。れ。と。尾。よ。る。と。き。種。ひ。あり。髪。を。入。着。か。て。ゆ。り。の
 と。と。回。答。の。あ。り。と。酸。鼻。て。流。輪。せ。も。う。け。し。ど。男。女。の。道。格。別。を。強。て。勸。る
 う。の。あ。り。此。彼。と。も。あ。り。の。い。ど。い。ど。い。ど。日。を。送。り。ぬ。と。よ。ま。り。背。棋。が。怪

黒平の曩は豫念を遣せられて三浦岬の浦曲を徘徊し近き武家の豊隆へ
 来て悪棍の大お軍あるじくふりやあましく我意おほりて性急なる正烈火乃
 工ひつらふと一時よきまごど動もされが言を殺夫悪人お怒り倒し物を
 さとまごぐりれば近御の坊費村翁丸弾して害怖く人彼を縛りて半响
 と喚做さる。又彼黒平が支堂なる悪棍は小馬栗徹八と喚るは曩は天龍の
 津めて黒平は相憚り津人は打扮て背棋止み子を脱し申す。そのと発覚
 してさなふらちや逆電して管根の権は八九年の月日を送り近属武家の
 豊嶋へ申す。さうは黒平は環会おのれは行轡を昇るが。あまび彼が属て
 ようぬおひとまご預はるは芝崎寺のあまらめて独りさる女を討利
 して綱五郎が小女十兵衛はく懲られ逃りて黒平は縁由を告あじ。又
 遠く舊の処へまごりて叢中へ投まする杉楸とて人を色む又十兵衛

撞見て件の色を奪ひ後黒平は徹八が跡を追慕来て件の衣を奪ひさる。
 草小寐して逃まする奪ひさるの奴らる。自極を禊は世「漢東の羽徹と
 といぬらう管領家より浦へ今ほある。一文字の陣羽徹るは豫念へ
 齎して賞残をさるやとあふり。そのおれを向するが却難をふる人欽要時
 秘おれて律の争をゆ定め。そのおれは術のうと肚裏おるあう。徹八は此乃
 物とさしてその足跡めめて入あさせざれども。徹八が偷むとりや。と支堂
 といふはうゆて。いふせは「とちん後秋の八月はあじらば生平は彼陣羽徹を
 夾衣の下小被て且くも軀をさるまご。それあはを綱五郎の弱をたらし。
 強をばたき善き也。悪は懲せど比周して黨を結ば彼黒平亦を討ましり。
 ようぬのいとも事あるけまびら里を卒亦追ひ由攘むとまらふ十兵衛が
 物かうゆ詰くる。大徳が初まを奪ひいりのへ彼半响黒平欽さるは野計の

先棍る下折せしむ衣縫盤せんと。大慈夜のまるる夜。叮嚀も聞はくじと。
只るは父の像を見る。夜よのそをちてつゝあはれなきがせんときて黙座。
つ。有日綱五郎の芝崎道場へ赴きて母の墓を参り世にやうも里人亦きりらひ。
里猶盡ぬ方よ當りて事あつげさへんはさるるまやあけむむむむむむむむむむ。
一歳高れあつ男一個の小斬と小腕よりつけいりて罵つて搦来むと則。
別人るは強く結ばる黒平あり。この小斬の主なる商人黒平が袖は携りて。
勸解するも穂ど痺の事と側笑は件の小斬店へ水を濺んとて失て黒平は。
はさうけ。忽地事のはれど。侠客といひ綱五郎。こまぶこまぶとさし。
やてまてまて老弱と左存りは已れ。饑る猛虎の羊を驅求食する。
鵬の狼と狸勢もと黒平が前よまて推さむ。やよ且くもあつるも人名を。
面を隠すも秘のけまけけさるも。打とけて物をえいりて。んわ不可
あ

綱五郎。己あつる様の顔と大きくささる。敵のみさすぬ小斬あつるも。
あつとけいふ論彼がさするれも。勸解の外は綱五郎が顔を覗く。
放りもといひものあへど黒平は圓く。眼を睇り。声をうり互に語る名をさす。
雛蝶丸とて和玉が挨拶で軟く容をせむ。講和人がむを語。さ。放せ。
このれは半晌が遊侠の癡る。敵手はさるぬ小斬。一足指の綱五郎。骨が
あつあつと穂ど穂どつと。さ。さ。と。驚ひかれながら。微笑何ともせぬど
物のひひひてうけ。まてまてとてそが随ふ。相人中で逡巡する綱五郎。ゆま
任侠のまてまて。去偽が勸解る。放りていりせ。不や放りぬ其れ退け。とうらま
尖牙と及む。小斬を捨て西三歩をさす。半く足踏駐め。眉間を平て閃く。春を
丁と受む。組人とさ。つと。つと。あつあつ。黒平を横さぬ。搦倒しの。
あつて。胸前と。疎瀆と。さ。綱五郎。隻足。忽地。癡麻。小腕を撲地と。突くと。
あ

新撰源平頼朝公御歴代御事



承服春葉子

糸村春葉子

黒平獲て牙を起して呵くと冷笑ひ半响を威勢を見せりや。群一が死奴
 るれども、時叔二が地方の妨和郎も此夫人よき。龍標丸の綱五郎、小所を
 領けて去の俣、且つなちも別見え、紙入をとり返せど、こゝろを掌に入らうと。
 ころぬぬと承るしと、終てえもせぬ和主が紙入あると、こゝろ果て懐を推
 ひた、嚮へ小所を引拍、彼此との間、耳搦も廿四金十兩紙入の共失とれば、
 疑ひ、這奴は偽る。あぬといひ綱五郎、逃せ、小所をとりせ、とくしせ、と
 悪棍の金、おとすとあつても争つて、うち良政素より、あぬとあつて、敵に
 金の有元面、あつてもあつてもあつても、あつてもあつても、あつてもあつても、
 懐、あつてもあつても、あつてもあつても、あつてもあつても、あつてもあつても、
 黒平。一刺も終るは、いど、いど、いど、いど、いど、いど、いど、いど、いど、いど、
 よ倍とせ、そのいど、あつてもあつてもあつても、あつてもあつてもあつても、
 那人、駈聚、あつてもあつてもあつても、あつてもあつてもあつても、あつてもあつてもあつても、

澄文より、あつてもあつてもあつても、あつてもあつてもあつても、あつてもあつてもあつても、
 黒平、綱五郎、再てあつてもあつてもあつても、あつてもあつてもあつても、あつてもあつてもあつても、
 の塵、あつてもあつてもあつても、あつてもあつてもあつても、あつてもあつてもあつても、
 主のあつてもあつてもあつても、あつてもあつてもあつても、あつてもあつてもあつても、
 いと、あつてもあつてもあつても、あつてもあつてもあつても、あつてもあつてもあつても、
 暴、あつてもあつてもあつても、あつてもあつてもあつても、あつてもあつてもあつても、
 いぬ、あつてもあつてもあつても、あつてもあつてもあつても、あつてもあつてもあつても、
 領へ、あつてもあつてもあつても、あつてもあつてもあつても、あつてもあつてもあつても、
 と、あつてもあつてもあつても、あつてもあつてもあつても、あつてもあつてもあつても、
 その、あつてもあつてもあつても、あつてもあつてもあつても、あつてもあつてもあつても、
 半响、あつてもあつてもあつても、あつてもあつてもあつても、あつてもあつてもあつても、

夜のきびつをよみききと又の徳見よめといふことある故ありげに此彼といふ
ころ不疑に於て半胸黒平おもあふ引拘赤裸やくや身整せんところ一ツイ
よひ決て一日二日と過と移る黒平の次の月よりまづぐや町の赤屋へいぬく
件の金と債とをも綱五郎に隠てよる。あつりあはぬ園宅のりのみまろせとて
忙しくまると母屋の備に招けりいひ實つてせんと。十女鳥旦閑もなや
まると傍痛くおひり。あつて秋もなや。八月甲のころなつりつ。九月十五日を
清の道場なる。然るの神社の祭祀も今茲に輪の擧るをよけて。十二分の
あま秋の八里の壮客ホがのく早指をさうへる。餘得の儀三千あり。あまを
法ちや進せん物よして酒を嗜んところら集合つ相譚する。あつ中か三人
進出左の右といつらよる。例の儀ちの祭祀も勸進相撲を興せよるれい今
てや習儀を執るも殊は今宵の月もよ。辻相撲く第一の最手扱ひを極る

ものこの新米をよまじ。よるの衆皆笑坪よる。よる一匹の被物いとおも
る。黒平の准海をよませよと。よる黒平が罾計の小馬栗
微んやあつて半胸は若く。よる究竟のよも頭入くと片隅より一人も残よと
砂纏きて三十俵を物さき。これ続けといひひく相撲の場よまられん。よる
三番あつてそのよ黒平の杜夜ホをよして最手扱ひを極る。よる早指被
ら。よる傳入す。よるよるよる。よるよるよる。よるよるよる。よるよるよる
微ん通。よるの中へ跳入る。よる形勢も長一皮高じて内堅く骨違く。よる
黒くして海。墨を刷る。よる。よるよる。よるよる。よるよる。よるよる
これをよとて送よ。よる海袖をよ。よるよる。よるよる。よるよる。よるよる
鳥威種井。よる代連柳をよ。よる俣号せよ。よるよる。よるよる。よるよる
名よして黒平と挑ま。よる。よるよる。よるよる。よるよる。よるよる。よるよる

如く二龍の玉を欲とどく。甲乙の争ひは、後、衆人の汗を握り、いづれと
見る程は、綱五郎一声唖て組る。膝のうらとれた、競つて、右左のへ外、西三遍
飛とて、初む、如く、いづれとどく。その勇も、黒平を目上する。一、揚つ、やがて、
かげ、二、撞と、投、半、响の、筋、半を、あ、つ、て、砂、半、身、掘、埋、早、起、も、な、ら、し、
衆人、中、と、声、を、合、七、翻、煉、丸、を、巻、る、声、揚、つ、て、鳴、止、む、の、り、後、綱、五、郎、の
起、ん、と、巻、纏、く、黒、平、が、背、を、撞、と、際、縮、ま、を、れ、半、响、雄、煉、丸、を、威、勢、を、え、る、や。
衆、人、の、後、を、踏、ん、ど、つ、て、足、の、延、停、し、別、な、友、あ、ら、う、の、り、つ、て、其、後、お、ま、れ、の、
あり、汝、施、す、と、人、口、ろ、く、て、ま、た、の、後、あり、が、わ、り、山、金、十、兩、突、つ、つ、と、不、問、の、聲、
お、ま、心、債、よ、ぶ、て、叔、婦、小、又、は、謙、一、れ、ど、い、ふ、も、れ、ら、い、ら、う、に、三、十、儀、の、積、物、を、
被、十、金、を、賤、ん、だ、つ、れ、つ、て、返、す、も、も、つ、た、物、を、れ、ど、脅、力、を、驚、る、汝、が、牙、を、ひ、と、
三、十、儀、を、一、度、の、員、く、も、と、去、る、べ、い、な、ら、し、と、責、懲、し、里、人、の、さ、し、

如く二龍の玉を欲とどく。甲乙の争ひは、後、衆人の汗を握り、いづれと
見る程は、綱五郎一声唖て組る。膝のうらとれた、競つて、右左のへ外、西三遍
飛とて、初む、如く、いづれとどく。その勇も、黒平を目上する。一、揚つ、やがて、
かげ、二、撞と、投、半、响の、筋、半を、あ、つ、て、砂、半、身、掘、埋、早、起、も、な、ら、し、
衆人、中、と、声、を、合、七、翻、煉、丸、を、巻、る、声、揚、つ、て、鳴、止、む、の、り、後、綱、五、郎、の
起、ん、と、巻、纏、く、黒、平、が、背、を、撞、と、際、縮、ま、を、れ、半、响、雄、煉、丸、を、威、勢、を、え、る、や。
衆、人、の、後、を、踏、ん、ど、つ、て、足、の、延、停、し、別、な、友、あ、ら、う、の、り、つ、て、其、後、お、ま、れ、の、
あり、汝、施、す、と、人、口、ろ、く、て、ま、た、の、後、あり、が、わ、り、山、金、十、兩、突、つ、つ、と、不、問、の、聲、
お、ま、心、債、よ、ぶ、て、叔、婦、小、又、は、謙、一、れ、ど、い、ふ、も、れ、ら、い、ら、う、に、三、十、儀、の、積、物、を、
被、十、金、を、賤、ん、だ、つ、れ、つ、て、返、す、も、も、つ、た、物、を、れ、ど、脅、力、を、驚、る、汝、が、牙、を、ひ、と、
三、十、儀、を、一、度、の、員、く、も、と、去、る、べ、い、な、ら、し、と、責、懲、し、里、人、の、さ、し、

黒平東西をうらつて呵と打

笑ひ相模の敵ゆへに

件の俵を十あしりとりて丸くして黒平が背の上へおろしつゝ、
 帯引締ひ服夾の刀を
 左手より捲て又黒平の胸に打ちつけ、
 黒平は苦び、
 十両の金何れせん救せよと勧解するも、
 何も解りて阿容もどつて、
 羽織もどつて、
 中る衣帯の赤裸中七穿鑿せんと、
 物怪の辛は、
 牙の動も僅く働く眼を睜く、
 屠所の羊の声あり、
 微八の何処ぞ。

つか衣をりて去去れ、
 煮もの入と半胸が衣を捲て、
 見てもこそ這奴は支黨の、
 菓る俵の騷擾は、
 友をせよ黒平は、
 忙つ左方より、
 を執り、
 蒐て北と望て、
 其処は是れと、
 一個の旅客兵士五七人、
 振ど路をゆめて、

新撰者野音編卷六

十



孫助安春葉子景光



秋五郎と
援んて
細五郎
追補の
兵主を
ころと

孫助安春葉子景光

声をうりまきしるる人よ物り人追捕の兵士は抑留せられてのどく難儀し
 及ぶ遊使とよきまわらざる救ひ多くと嘆びけり。綱五郎は今既よ小馬栗
 と追ひ失ひて怒まじき納言と頼山陽は魚燥たるに彼が聲といふ声と聲と一
 まり驚て女を肉と扱ひもんせと。臂らるるる兵士とたゞとぞんぞん破倒しへま
 刀小又入が細頸丁とらるる残る兵士驚きまをれて蟬子をららけどく
 山路を登りて逃るる。旅客の馬を伴ふもいふと呆れ果て物をも
 いりごと小膝をつじかき刀を引抜て肚を切らんとし。綱五郎はこころを
 忙し推禁め仇の既よ失するも却自家をたゞの狂人の正しは無きを
 然めて下らざる律の仔細とまじし身とまじく回して旅客の恨びは綱五郎と
 見えつづ嘆息。今朝よ及て縁由とまじき益るるる。なれはの後はある人
 めは旅柄ともすまへ何う匿ん其ハ山内の管領家憲政の近臣。神原

狭五郎と嘆き一りのをたつていぬ。比背棋との老女を教へ。云号せし女
 房の妹とて鎌倉と逆電。推さるる別れ。世よるる乳母が舊里と
 めてよ武蔵の。假名川へ赴けり。彼乳母が早世。その良人微八といふ
 のの罪あつて十三三年赤い地方を追まて往方まじき。今その跡終るは
 下めて嘆て忽地は憑む樹下は雨の漏れども隠るる命凶。されども人よ人
 鬼の。里人ホカ好意あて。こよ一月彼首は十日物。つれ月日を送んとて。額髪を
 剃落し。原狭七と名取。度て百日あつて。彼処あつ。ある小扇谷朝興ぬへ。こら
 故主と同宗あて。晋泰の好と。まを。彼知すても穿鑿厳しく。牙と隠す
 べたよまざるは。人の由縁とまじき。も下總の。竹徳とまじき。存妹子
 小糸と推つ。隱宅とまじき。去この麓を。まじき。扇谷家の追捕る。兵士
 五七人よ抑留せ。れ責よ小糸は捕られ。と難儀まじき。と。其彼ホカ

傷けぞ下へ尻口を脱ぎて浦へを徘徊。主君隠て索る。一文字乃羽織を
 あさぐその形をうもむめは逆電せし五十。微臣が孤忠を強く吐た切ん
 とるあは。和後よ援を乞ひし。又を命て兵士ホと欲教え高まふ。あう系
 和後の猛く早く。彼後を教せし。が罪竟は腹を踏む。主よ怒る逆
 後とるぬ。れびとて命せし。逆かた。あわむ。あつた所。あつた所。あつた所。
 今へもせん。其知退身と教圍て力を極て刀夫を胆へつ。と焦燥
 とも。細五郎の此も放さ。や。社士つ。律の。を。主の。為。入。を。教。
 口。死。の。あ。て。女子。と。お。て。逆。電。一。二。子。と。し。の。夜。と。索。て。主。君。を。献。す。その
 と。ゆ。よ。を。際。白。死。ん。と。お。い。味。は。い。ら。う。所。道。理。お。稱。へ。早。う。追。捕。の。兵。士。を。欲。教。
 せ。は。ら。が。過。失。い。ひ。と。お。辞。は。せ。ら。う。と。も。の。あ。は。和。主。は。胆。を。切。く。援。め。あ。わ。す。
 ぞ。と。し。又。和。主。を。教。さ。う。鳴。呼。が。ほ。く。の。あ。ら。ん。が。号。号。八。番。蝶。丸。字。

細五郎と喚ぶ。不町の来るをみる。れ。も。雅。く。て。親。を。喪。ひ。商。人。の。亦。終。へ
 る。ぞ。と。背。力。の。腕。あ。ら。ま。り。劍。聖。巻。は。も。好。み。け。り。て。人。も。ま。習。ひ。は。て。
 弱。を。助。け。強。を。折。き。憑。む。と。い。は。し。て。下。へ。び。も。後。途。へ。い。ら。う。と。お。る。れ。は。事。和。主。を
 教。さ。う。追。捕。の。武。士。の。崇。と。穿。鑿。せ。ま。う。と。あ。ら。解。屍。人。細。五。郎。名。告。り。け。て
 あ。ん。の。和。主。が。あ。ま。る。る。り。あ。の。あ。ら。今。又。い。ら。う。一。文。字。の。陣。羽。織。を。索。ち。て
 ち。の。ま。じ。と。ま。ま。う。の。り。が。研。く。も。さ。う。の。が。ま。あ。ん。件。の。羽。織。を。い。ら。ふ
 まで。盗。取。て。肌。を。教。さ。う。下。へ。彼。後。一。癖。者。あ。り。と。れ。去。う。と。精。し。う。け。い
 なる。ぞ。も。後。を。ゆ。て。拘。へ。と。追。捕。が。追。失。ひ。て。と。ら。も。も。忽。地。和。主。を
 鳴。け。れ。律。の。さ。う。と。ら。う。の。赤。毛。不。逆。の。縁。あ。ら。ん。と。今。三。日。細。五。郎。が。
 身。あ。ま。る。る。あ。ら。う。捕。捕。せ。下。彼。女。子。も。救。ひ。さ。う。と。わ。ら。さ。う。一。言。を
 なる。も。傷。む。め。田。の。神。も。服。覽。あ。れ。身。の。又。雷。は。聲。碎。と。死。し。と。ら。捺。是。は

沈まらんめても自教あるやと誓ひせりて現倫を袂五郎とて彼
あて感涙坐す拭ひぬと又せやと難は納め某假名川はわじと死灰不
和茂の名取はつが。ありかまたは任使あり一文字の羽織をとり給はしてあつた。
小糸くらの愁よ足もど求めども彼女子の故されてあつた。来るんをさそせ
まら勇者はわぶと。これも又和茂の為より背よあつた。牙へ天雷は怒聲を
永劫うらむせあつた。とと天地を砕く誓ひく。綱五郎とてさ。怒びあつた。
口も山や小懸むむ。二事あり。づら家や叔婦あり。又近ころ難ひあつた。
大徳との女子あり。姨の足り。ちとも小徳大徳をりて某妻をせんとて目録とる。
まづく教訓せしるれども。親の蹟よりひる。坊賈の爪為。おれ。以て妻子を
帯りぬ。と。桎梏をけけ。て。隨は世に。と。れ。後。事。お。推。辞。つ。け。し。
ま。ぐ。れ。且。し。けん。と。追。捕。の。武。士。を。殺。す。罪。犯。と。す。肩。へ。バ。リ。か。今。の。憑。れ。ど

推さば。うら。み。れ。叔。婦。と。そ。が。足。と。せ。め。て。口。身。の。あ。れ。後。は。店。暖。簾。と
失つ。と。後。は。人。由。と。と。あり。既。は。う。を。と。結。ば。日。れ。と。和。茂。ハ。ア。弁。る。り。
誓ひ。ま。は。偽。り。の。彼。大。徳。と。妻。や。と。雲。時。と。も。糸。屋。の。塵。と。相。結。と
も。つ。れ。と。代。る。あ。つ。た。被。五。郎。の。意。を。移。す。沈。吟。誓。ひ。を。背。お。あ。つ。た。後。も。
曩。は。捕。捕。と。る。小。糸。ハ。理。あ。る。女。子。あ。る。小。徳。存。亡。を。外。す。て。妻。を。要。ん。と。さ
ころ。ま。ど。加。納。坊。賈。の。爪。為。と。結。と。あ。ぬ。某。素。と。り。罪。を。主。君。よ。得
と。れ。ば。存。命。と。と。ま。つ。ら。も。代。の。家。を。受。統。の。妻。子。の。連。累。と。る。の。あ。つ。た。この
事。の。ま。は。解。の。と。し。の。ま。の。あ。つ。た。と。と。掉。し。る。後。は。や。と。坊。賈。よ。る。果
の。と。し。の。ま。の。あ。つ。た。と。彼。一。文。字。を。復。和。主。が。世。よ。立。て。あ。つ。た。と。と。叔。大。徳。の。娘。は
連。く。生。涯。を。安。く。せん。正。妻。側。室。ハ。入。る。あ。つ。た。何。も。う。ふ。お。い。は。な。な。言。葉
子。徒。ハ。と。あ。つ。た。け。ん。と。置。と。う。あ。つ。た。あ。つ。た。も。誓。ひ。を。背。る。や。と。理。の。せ。め。て。現

